



中国四国

第29号
平成27年7月発行

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

航空基地祭・日米親善デー2015航空ショー



(米国海兵隊、海上自衛隊第31航空群写真提供)

CONTENTS

- ① 航空基地祭・日米親善デー2015航空ショー
- ② 海上自衛隊 護衛艦「いせ」一般公開
- ③ ふれあいコンサート・呉音楽隊演奏
- ④ 航空自衛隊美保基地「美保基地航空祭」
- ⑤ 広戸池竣工式
- ⑥ 日米共同統合防災訓練
- ⑦ 総合防災演習
- ⑧ 中国四国防衛局長 広島大学で講演
- ⑨ 米海兵隊岩国航空基地所属2部隊善行表彰
- ⑩ 平成27年度中国四国防衛局発注工事に係る業務説明会
- ⑪ 掃海母艦「ぶんご」艦上レセプション
- ⑫ 掃海殉職者追悼式
- ⑬ 米海兵隊岩国航空基地民間人人事部長感謝状贈呈
- ⑭ 米私立コルゲート大学岩国基地等見学
- ⑮ 26ASR連絡調整会議
- ⑯ 中国四国防衛局入札監視委員会委員長感謝状贈呈


Chugoku-Shikoku Defense-Bureau
 編集・発行 中国四国防衛局
 〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30
 Tel. 082-223-7109



岩国市の米海兵隊岩国航空基地で平成27年5月3日に、「航空基地祭・日米親善デー2015航空ショー」が開催されました。

今回の日米親善デーは米海兵隊岩国航空基地と同基地を共同使用している海上自衛隊岩国航空基地が初めて共同開催しました。

航空自衛隊のブルーインパルス（宮城県松島基地（3年ぶり））、英国を拠点とする民間のパフォーマンスチーム「ブライトリング・ウイングウォーカーズ」は、日本で初めてショーを披露、その他の催しに、小雨の中、人出は約165,000人が訪れました。

中国四国防衛局からも、芹澤局長をはじめ、越智総務部長、伊藤企画部長、紅林調達部長、西浦岩国防衛事務所長が招待を受け出席しました。



(ブシェー岩国航空基地司令)

(大瀬戸群司令)

海上自衛隊 護衛艦「いせ」一般公開

平成27年5月2日、海上自衛隊岩国航空基地が「航空基地祭・日米親善デー2015航空ショー」のプレイベントとして、岩国港室の本埠頭で大型護衛艦「いせ」の一般公開を行いました。

停泊中の護衛艦に約6,000人が訪れ、飛行甲板やヘリコプター格納庫などを見学しました。

【護衛艦「いせ」は、「ひゅうが」型ヘリコプター搭載護衛艦の2番艦であり、優れた対空・対潜水艦戦闘能力を有し、平成23年3月に就役しました】

(海上自衛隊第31航空群写真提供)



ふれあいコンサート・呉音楽隊演奏

海上自衛隊岩国航空基地が「航空基地祭・日米親善デー2015航空ショー」のプレイベントとして、大型護衛艦「いせ」の一般公開のほかに、シンフォニア岩国で開催された、「海上自衛隊岩国航空基地ふれあいコンサート」では、海上自衛隊の歌姫が特別出演し、ミュージカルソングなどを熱唱し、満員の観客を感動させました。

【海上自衛隊の歌姫は、海上自衛隊東京音楽隊所属のヴォーカリスト、三宅由佳莉3等海曹】

(海上自衛隊第31航空群写真提供)



航空自衛隊美保基地「美保基地航空祭」

平成27年5月24日(日)、航空自衛隊美保基地にて恒例の航空祭(今年で52回目)が開催されました。当日は、好天にも恵まれ約7万人が来場しました。中国四国防衛局から芹澤清局長が出席しました。

実際に飛んでいる飛行展示では、美保基地のC-1、YS-11輸送機、T400練習機、F15戦闘機(福岡県築城基地)のほか、CH47輸送機等の飛行を披露しました。ブルーインパルス(宮城県松島基地(8年ぶり))の曲技飛行は6機が空を舞い、煙でハートマークなどを描いたりし、鍛え抜かれた技術で来場者を魅了しました。

(航空自衛隊美保基地写真提供)



(第3輸送航空隊司令 兼 美保基地司令)
高橋 和久 1等空佐

広戸池竣工式

平成27年4月7日(火)、日本原演習場周辺農業用施設設置助成事業として実施した広戸池整備事業がめでたく完成し、竣工式典が挙行されました。

本事業は、日本原演習場の設置・運用、長年に亘る訓練により、地形が改変され流域が変化し、河川及び井戸水位の低下を招き、農業及び生活に支障をきたしていることから、農業用貯水施設(ファームポンド・通称広戸池)を整備し、用水を確保することで、民生の安定に寄与することを目的として津山市に対して、防衛施設周辺の生活環境の整備の一環として、助成という形でお手伝いさせていただいたものです。



日米共同統合防災訓練

○日米共同統合防災訓練（TRES）とは

日米共同統合防災訓練（TRES）とは、国難とも言える巨大地震になることが想定される南海トラフ地震について、「自衛隊南海トラフ地震対処計画」に基づき、実動訓練による自衛隊及び在日米軍並びに防災関係機関との連携要領について演練し、自衛隊の震災対処能力の向上を目的としたものです。

本訓練は、平成27年6月7日（日）高知県が主催する「総合防災訓練」及び香川県善通寺市を中心に所在する陸上自衛隊第14旅団主催の「旅団災害対処演習」の枠組みの中で行われ、具体的には、関係機関による情報共有、被災者及び救援物資の輸送、孤立地域への初動部隊派遣、洋上における捜索救助及び応急医療等の訓練が行われました。

なお、自衛隊から人員約1,150名、航空機18機、艦艇1隻、在日米陸軍からUH-60ヘリ2機などが参加しました。



○防災訓練への参加

中国四国防衛局は本訓練に企画部職員を派遣し、高知駐屯地に設置された指揮所において訓練の進捗状況について情報収集すると共に、万が一、訓練中に事故等が発生した場合にも対応できるよう万全な態勢をとりました。

また、防衛省からは石川博崇防衛大臣政務官が高知県を訪れ、山下裕貴中部方面総監の案内により、芹澤清中国四国防衛局長等とともに、高知駐屯地の指揮所における情報共有訓練、海自輸送艦「くにさき」における応急医療訓練、種ヶ崎海岸における物資輸送訓練等を視察しました。



総合水防演習(広島県三次市)

○総合水防演習とは

総合水防演習は、国土交通省、関係機関及び地域住民の参加のもと、情報伝達・水防工法・人命救助・避難訓練等、実態に即した演習を行い、水防団員等の士気高揚・水防工法技術の練磨に努め、関係機関相互の協力・連携の強化や地域住民の防災意識の啓発を図り、防災体制に万全を期すことを目的とするものです。

今年度の訓練は、平成27年5月17日(日)広島県三次市で開催され、陸上自衛隊第13旅団が参加し、渡河訓練等が行われました。また、中国四国防衛局からは越智総務部長等が演習状況を参観しました。



中国四国防衛局長 広島大学で講演

平成27年6月24日、芹澤清中国四国防衛局長が広島大学の学生を対象として、東広島市内の東広島キャンパス及び広島市内の東千田キャンパスにおいて講義を行いました。

講義の内容は、安全保障法制、平和安全法制の概要など、通常の講義では聴くことのできない防衛政策に関するものであり、学生達は熱心に聴講していました。

東広島キャンパス



東千田キャンパス



米海兵隊岩国航空基地所属2部隊善行表彰

平成26年8月に発生した岩国地域での豪雨災害・土砂災害の土砂撤去や清掃などのボランティア活動をした米海兵隊岩国航空基地所属の2部隊（海兵第152空中給油輸送中隊、海兵隊岩国航空基地司令部中隊）が、日本善行会（一般社団法人）から、平成27年5月23日に表彰されました。

平成27年6月3日に、岩国市役所へ訪問し福田岩国市長に報告を行いました。

(岩国防衛事務所写真提供)



平成27年度中国四国防衛局発注工事に係る業務説明会

中国四国防衛局は、4月20日、岩国商工会議所ホールで開催された「平成27年度中国四国防衛局発注工事に係る業務説明会」（主催：岩国商工会議所建設業部会）に、紅林調達部長らが出席し、多くの地元建設業者の方々に対し、27年度の発注予定工事や制度の改正について説明を行いました。

当局では26年度より、総合評価落札方式において、参加資格要件等を共通化できる複数工事の発注が同時期に予定されている場合に、競争参加申込者からの技術資料の提出を一つのみとし、技術審査・評価を一括して実施する一括審査方式を試行しているところですが、27年度は、一括審査方式の場合、入札保証金の取扱いや特定建設工事共同企業体で参加する場合の入札参加環境の改善を行うこととしています。

説明会では、冒頭、福田岩国市長から挨拶があり、これまでの中国四国防衛局による各種施策の結果、地元業者の受注拡大に向けた効果は大きい旨発言がなされ、長野岩国商工会議所会頭からは説明会参加業者に対して、受注意欲を強めてもらいたい旨、発言がなされました。



説明会の様子(説明者:紅林調達部長)



冒頭挨拶(岩国市長)

掃海母艦「ぶんご」 艦上レセプション

平成27年5月29日(金)、呉地方総監部の主催により、香川県高松市サンポートの高松港5万トン級岸壁に入港した掃海母艦「ぶんご」において、掃海殉職者追悼の艦上レセプションが実施され、ご遺族、地元国会議員や関係市町の長の来賓をはじめ、伊藤呉地方総監、岡掃海隊群司令等の海上自衛隊関係者が多数出席されました。なお、中国四国防衛局からは、芹澤清局長が出席されました。

艦上では、海上自衛隊員による生バンドの演奏が行われ、日が沈むと高松港の夜景に「ぶんご」の艦艇が映える電灯艦飾が行われました。

殉職された79名のご遺族の方々は、海上自衛隊の幹部をはじめ、自衛隊OBや水交会の方々、自衛隊協力関係者等と、戦後間もない当時の掃海部隊の活躍など、なつかしい話題を交わしながら、殉職者の功績を偲んでおられました。

掃海艇は機雷処理などが任務で、掃海母艦は食料や水の補給といった支援業務に当たる艦艇であり、東日本大震災では、救難活動に参加し、物資の輸送や被災者の入浴支援を行いました。

(高松防衛事務所写真提供)



掃海殉職者追悼式

平成27年5月30日(土)、呉地方総監部の主催により、第64回掃海殉職者追悼式が、香川県琴平町の金刀比羅宮境内にある「掃海殉職者顕彰碑」前の広場で営まれ、ご遺族のほか、地元国会議員や関係市町の長、防衛協力団体等の来賓をはじめ、海上自衛隊関係者および海上保安庁職員ら280人が参列して厳粛に執り行われました。

追悼式では、伊藤呉地方総監により「殉職者霊名簿」が顕彰碑の前に奉安され、追悼演奏や儀仗隊による敬礼、弔銃発射が執り行われました。

また、海上自衛隊掃海隊群司令の岡浩海将補は追悼の辞で「掃海作業の偉業とともに道半ばにして殉職を遂げられた皆様がおられたことは国民の心にとどめられ、その歴史は長く語り継がれることでありましょう」と述べられた。

その後、遺族らは顕彰碑の前で黙とうし、花を供えて殉職者の冥福を祈りました。

なお、追悼式には中国四国防衛局からは、芹澤清局長が参列いたしました。

【掃海殉職者：第二次大戦中、瀬戸内海及び日本近海には約六万七千個に及ぶ各種機雷が敷設され、昭和二十年八月の終戦時、日本周辺の主要港湾、水路はことごとく塞がれていました。戦後これら残存機雷を除去し安全な海上交通を再開することが、国家再建の緊急業務となり旧海軍関係者は率先して航路啓開業務に従事しました。昭和二十七年までの六年有余に亘って主要な航路、八十余箇所の港湾や泊地など総面積五千平方キロに及ぶ海域が啓開され、我が国の産業経済の復興に大きく貢献しました。この間、航路啓開隊員は風浪寒暑と闘い、自らの危険を顧みず掃海や爆発物処理作業に挺身し、不幸にも七九名が殉職しました。

「掃海殉職者顕彰碑建立の由来」の案内板より抜粋】

(高松防衛事務所写真提供)



米海兵隊岩国航空基地民間人人事部長感謝状

平成27年3月27日、在日米海兵隊岩国航空基地において、同基地のナンシー・クリニツキー人事部長に感謝状が贈呈されました。

岩国航空基地においては、米軍再編による部隊編入に伴い、駐留軍等労働者の大幅な増員が始まっており、それに伴う新たな雇用問題が発生するなど、これまで国及び在日米軍、労働組合の間で度重なる協議・交渉が行われてきましたが、クリニツキー人事部長は労働者や国の立場に深い理解を示し、問題解決に尽力され、そして見事な成果を残されました。

同人事部長は、1994年に在日米空軍嘉手納飛行場に人事専門職として勤務し、その後、米海兵隊沖縄基地、海兵隊カネオヘベイハワイ基地を経て2012年に岩国航空基地に着任されました。その永きにわたる経

歴の中で培われた見識は、岩国航空基地での雇用管理において遺憾なく発揮され、日々、様々な生起する複雑困難な諸問題の解決に真摯に取り組まれ、この度の感謝状贈呈は、同人事部長の米本国への転任にあたり、これまでの多大な功績を称えるものでした。

感謝状は芹澤局長の代行として越智総務部長から贈呈されました。

最後に同人事部長は「大変光栄なことであり、中国四国防衛局の皆様方に感謝します」と謝意を述べられました。



米私立コルゲート大学岩国基地等見学(岩国防衛事務所)

平成27年5月21日に、ニューヨーク市にある私立コルゲート大学で、第2次世界大戦時の日米関係の研究をしている学生が、米海兵隊岩国航空基地を訪問した。

岩国基地で基地見学(ゼロ戦格納庫、旧帝国海軍司令部、海上自衛隊資料館など)後、南岩国に旧帝国海軍の地下工場跡があり、地下工場に関する岩国市の看板が設置してある緑が丘街区公園にて、米軍報道部から説明を行いました。なお、本件地下壕に関する説明では、岩国市総合政策部基地政策課及び岩国防衛事務所も立ち会いました。



公園付近の隧道(トンネル)の由来

太平洋戦争の末期に旧海軍により(呉市広町)の本隊、第11海軍航空隊を岩国など遠隔地へ分散や疎開させる計画が立てられた。これは、空襲を予想し、主に地下に生産拠点を移動させようとするものであった。

この付近の隧道は、空襲を避けるための地下疎開工場で、第11海軍航空隊の航空機生産施設(地下飛行機工場)として昭和20年1月ごろこの地(南岩国町二丁目地内)に築造されたもので、隧道の総延長は、第1区(緑ヶ丘住宅地東側)、第2区(緑ヶ丘住宅地北側)及び第3区(山中国地南側)の主坑、横坑を合わせ約2kmにも及び、内部は、網目状に連結されている。

第1区が翼工場、第2区が胴体工場、第3区が部品加工工場となっており、この公園用地には、鉄筋コンクリート製の組立工場があった。

地下飛行機工場では、本上決戦用の局地戦闘機「紫電改」の機体を月産40機生産することが終局目標となっていたが、第1号機を完成する直前に終戦を迎え、その役目を終えた。現在は、非行防止や危険防止のため、大半を埋め戻し、閉鎖している。

(トンネが入口は、私有地内にあり立ち入りできません。)

岩国市

見取図



26ASR連絡調整会議(「平成26年度潜水艦救難艦」建造に向けて)

玉野防衛事務所(所長・工藤博之1海佐)は、平成27年2月10日に「平成26年度潜水艦救難艦」(以下、「26ASR」という。)建造に係る契約が防衛省と三井造船(株)との間で正式に締結されたことを受けて、同年4月20日、三井造船(株)玉野事業所別館にて、三井造船(株)玉野艦船工場(以下、「玉野艦船工場」という。)建造関係者の参加を得て、26ASR連絡調整会議を開催した。

26ASRは、海上自衛隊が運用する潜水艦が事故等で救難が必要となったとき活動する艦船で、海難事故救援、大規模災害派遣など多目的に対応できる能力を有している。

玉野艦船工場では、護衛艦、輸送艦、補給艦等これまで30隻の建造実績を有しており、平成26年3月就役の護衛艦「ふゆづき」に続いての建造となる。潜水艦救難艦の建造は「ちはや」に続き18年ぶりの事業となる。

会議では、まず工藤所長が「建造工程が短いという課題を認識しており、艦船建造に支障が出ないように、官民の情報共有と意見交換の場としたい」と述べた。玉野艦船工場からは建造統括の河本艦船部長が「短期間の建造工程であるが、しっかりした艦船を建造したい」と述べられた。

同会議は、玉野防衛事務所と玉野艦船工場の意思疎通を図り、艦船の建造状況、工程管理等の意見交換の場として今後毎月1回実施し、起工後の工程会議へと引き継がれる予定である。



中国四国防衛局入札監視委員会委員長感謝状贈呈

平成27年6月23日、神野智文中国四国防衛局入札監視委員会委員長に芹沢中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。

神野氏は、長きに亘り広島防衛施設局入札監視委員会委員及び中国四国防衛局入札監視委員会委員として在任され、卓越した見識のもと貴重なご意見をいただき、中国四国防衛局における契約の透明性の確保に大きく貢献されました。



人事異動(平成27年4月1日付)



(調達部長：紅林 昌)

4月1日付けで調達部長を拝命いたしました紅林です。3年前は、当局で調達計画課長をしておりました。

現在、当局の米軍再編事業に係る施設整備は最盛期を迎えており、大規模かつ複雑な事案が進捗しております。また、自衛隊の施設整備事業においても、離島での工事が本格化する等、困難を伴う事業を多く抱えております。これらの事業すべてを遅滞なく遂行して行くことが不可欠であり、日々の技術力の研鑽と地元の皆様のご理解を得るべく努めて行きたいと思っております。

よろしくお願ひします。